

事業所の概要表

(平成 30 年 11 月 16 日現在)

事業所名	グループホームみなみ					
法人名	有限会社ラッセル社					
所在地	愛媛県松山市津吉町1142-1					
電話番号	089-963-0957					
FAX番号	089-963-0957					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 15 年 11 月 11 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (1.2) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	1 ユニット		利用定員数 9 人			
利用者人数	9 名 (男性 1 人 女性 8 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	0 名	要介護2	4 名
	要介護3	0 名	要介護4	4 名	要介護5	1 名
職員の勤続年数	1年未満	0 人	1~3年未満	1 人	3~5年未満	0 人
	5~10年未満	3 人	10年以上	4 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 3 人			
	その他 ()					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	砥部病院					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 3 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	23,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,000 円 (朝食: 300 円 昼食: 300 円)
	おやつ:	円 (夕食: 400 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	水道光熱費	10,000 円
	冬季光熱費	1,000 円
	.	円
	.	円

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 ()	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成30年12月7日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	8	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	3		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870103698
事業所名	グループホームみなみ
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	池川 翔
自己評価作成日	H30.11.16

<p>【事業所理念】※事業所記入 ぼけても自分らしく生きられる 地域の皆さまとつながり、高齢者を尊敬し、介護の質を高める Relation Respect Quality</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 家族に協力してもらい、少数だが、外出行事に参加していただいた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 10時のお茶の時間には、コーヒーや紅茶、ココアなど数種類の飲物を挙げて、毎回、一人ひとりに希望を聞くようにしている。毎日、今日入浴するかや時間の希望を聞くなど、自分で決められるよう支援している。 前日入浴していない人から優先的に声をかけ、個々に週3～4日から毎日まで希望に沿って入浴できるよう支援している。希望があれば、夕食後も入浴支援できる体制だが、現在は利用者からの希望はないようだ。 職員が出勤時に連れて来る室内犬は、利用者の癒しになっているようだ。</p>
---	---	--

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	本人の意思、意向に沿って援助するように努めている	○		○	介護計画の見直し前に、ケアマネジャーが本人に思いや希望、意向等を聞き取り、その情報をもとに職員で話し合い、介護サービス計画書に記入している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	表情や言葉からの意思の疎通に努めている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族の方の思いや意見を聞かせていただいている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	個人記録にて記入し、スタッフ会議で共有化している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	スタッフ会議で話し合っている				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前から話を聞いたり、その都度話し合っている			◎	入居時、家族には、暮らしの情報シートに生活歴や生活環境、馴染みの場所や人、行きたい所や会いたい人、また得意なことや苦手なこと、興味のあること、好む話題等について記入してもらっている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	できることとできないことを把握できることはやっていたい				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の様子を記録し共有している				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	日々の記録にて要因が何かを話し合い把握に努めている				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	1人1人の生活リズムを共有し、把握している				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	本人が必要としていることを、スタッフ会議で話し合っている			○	月1回のスタッフ会議時にサービス担当者会議を行い、本人の希望や意向、モニタリングや評価記録をもとに話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人に何が必要なかを話し合っている				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	介護計画にて課題を明らかにしている				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人の意向に沿って作成している				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	担当者会議において意見やアイデアを話し合い作成している	○		○	サービス担当者会議時には、事前に聞き取った利用者・家族と職員の意見を踏まえて話し合い、それぞれの希望や意見を反映した介護計画を作成している。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	安心して過ごしていただけるよう、その人にあった介護計画を作成している				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	家族にも協力していただけるような介護計画を作成している				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	スタッフ会議で話し合い、共有している			◎	介護計画とプランチェック表をセットにしてファイルし、毎日サービス内容をチェックして把握・共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	スタッフ会議で話し合い、共有している			◎	サービス内容に番号を振り、実践できたかを毎日○×でチェックしている。 ◎ 個々の担当者が月1回評価を行い、スタッフ会議で状況を話し合い日々の支援につなげている。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	日々の記録にて記録している			○	日々の個人記録には、計画に基づいて記録するしくみはないが、計画に基づいた言葉や表情、行動等の記録や支援した内容の記録はみられる。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	個人記録にて記入している			○	日々の個人記録や計画の評価、サービス担当者会議の記録に、気づきや工夫などの記録がみられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	スタッフ会議で話し合い、見直ししている			◎	ケアマネジャーが一覧表にして管理し、3ヶ月に1回見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	スタッフ会議で話し合い、見直ししている			◎	月1回、個々の担当職員が計画の評価を行い、現状確認を行っている。 月1回のスタッフ会議時には、計画に関係なく全利用者について状況確認を行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	変化が生じた場合は、その都度話し合い、見直し、作成している			◎	主治医が終末期と判断した利用者について、家族と話し合いを行い、新たな計画を作成している事例がみられた。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	緊急時はその都度担当者会議を開き、話し合っている			◎	月1回のスタッフ会議時に、業務連絡や勉強会、計画見直し時のサービス担当者会議等を行っている。 ヒヤリハット報告など緊急時は、その日の勤務者で話し合い、日誌のヒヤリハット欄に記入している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	気付いたことがあれば、意見を交換し、共有できるようにしている					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	毎月25日と決められる限り参加して頂いている					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	書類をわかりやすい場所に張っている					
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	日誌にて申し送りを共有している			○	日誌に利用者情報や業務連絡、ヒヤリハットなどの欄を設け、情報を共有している。 利用者情報の欄に、家族からの伝達事項を記入していた。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	大事なことはわかるように記入している		○			
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	何がしたいかを把握し、できるよう努めている					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	朝の飲物や入浴等、何がいかか聞いている			◎	10時のお茶の時間には、コーヒーや紅茶、ココアなど数種類の飲物を挙げて、毎回、一人ひとりに希望を聞くようになっている。 食事時、「お寿司のお代わりありますよ」と、一人ひとりに食べるかどうかを聞いていた。 また毎日、今日入浴するかや時間の希望を聞くなど、自分で決められるよう支援している。	
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	本人が自分で決めたと見えるような声掛けを行っている					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	時間にとらわれないようにしている					
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	好きなこと等を把握し、生き生きとした雰囲気作りをしている				○	利用者の「おいしかった」の声に「〇〇さんが味見してくれたから」と返していた。 手引き歩行時、「1234・・・」と職員が声に出して歩数を数えながら歩き、笑顔で支援する様子がみられた。 午後から居間では、職員と一緒に、手足を動かして体操を行う様子がみられた。 誕生日には、本人希望の献立を皆で食べて祝い、事業所から本人の好みに合わせたプレゼントを贈っている。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情や仕草から本人の意向に沿って支援できるよう努めている					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	言葉かけや態度に気を付けて行動している		○	○	この1年間では、人権や尊厳に関して勉強する機会を持っていない。 職員は、穏やかな態度でやさしく声をかけていた。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	トイレ誘導等、さりげなく行うようにしている				○	箸を上手に使っているが、食べこぼしがある利用者は、胸に当てたタオルを上着で目立たなくするなどさりげない配慮がみられた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	羞恥心に配慮し、行っている					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	必ずノックをし、配慮している				◎	管理者は、食堂にいる利用者へ声をかけて許可を得てから入室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報漏えい防止について話し、理解している					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	人生の先輩として接している					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	研修にて理解している					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする。孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	◎	利用者同士が話せる環境を作ったりしている				○	席順は、性格や相性を考慮して決めている。 食事時、利用者が隣の人を見ながら「お箸を上手に使うでしょ」と話してくれた。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者にも不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	他の利用者にも不安を生じさせないようにしている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	家族からの聞き取りで把握している				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	育った場所など把握している				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	友人や知人が尋ねることはまれで、なじみの場所も昔とのギャップで戸惑いができてしまい、あまり行けていない				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会時間を設けず、いつでも来ていただけるようにしている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	散歩に出かけたり、ひなたぼっこされたりしている	△	○	△	春の花見の他に年2回計画を立てて外出を支援している。今年は、カラオケと動物園に出かけた。利用者からの希望で、椿さんと七折梅まつりに出かけた。日常の散歩等は出かけたがらない人が多いようで戸外に出る機会が少ない。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出はこちらでしているため				重度の利用者も計画的な外出行事には参加できるよう、キッチンバスミを持参したり、お花見の際にはミキサーを持参して支援している。日常の中では、戸外で過ごす機会は少ない。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	日向ぼっこや、年2回の外出で行っている			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	年2回の外出行事で利用者の方と話して決めている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	その人その人にあつたケアを心がけている				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	生活リハビリの中で自然にできるよう行っている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動している。(場面づくり、環境づくり等)	◎	家事や掃除などできることを自分でできていると思えるよう援助している	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	日々の生活などで把握している				選挙の際は、希望がある数名に同行して支援している。 洗濯物たたみやハタキ・モップかけなどの家事参加や日めくり係、誕生会のプレゼンターなどの役割、出番をつくっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	残存機能が低下しないよう援助している	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	◎	秋祭りなどでお菓子を配っていただいたりしている				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	何気ない声掛けてくしてといたりしている				きれいに整髪し、それぞれに季節に応じた似合う洋服を着て過ごしていた。 ほとんど居室で過ごす利用者には、毎日清拭を行い清潔に過ごす支援に努めている。 1名以外は、朝夕に更衣の支援を行っている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	本人の好みを把握している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	自分で決めていると思えるような声掛け、援助を行っている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出時、生活の彩りにあわせた支援をしている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	自然な援助でプライドを大切にしている	◎	○	○	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	×	家族からの要望もあり、施設で頼んでいる訪問整容を利用している				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	寝たきりでも毎朝顔をふき、髪をとき、本人らしさを保てるようにしている			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事の大事さを理解している				<p>週3~4回買い物に行き、職員が交代でその日にある食材で、利用者の希望も聞きながら献立を考えて調理している。 調査訪問日、利用者は味見役や下膳をしていた。</p> <p>◎ 買い物時、旬の新鮮な食材を選び、食事に採り入れて季節を感じている。 誕生日やイベント時は利用者の希望で寿司が多く、刺身も採り入れている。土用の丑の日はうなぎ、節分の日は巻きずしを採り入れている。 利用者が、「郷土料理(混ぜご飯)をよくしてくれる。おいしい」と話してくれた。</p> <p>◎ 湯飲みと箸は、本人専用のものを使用している。 茶碗は、共用のものを使用している人もいる。</p> <p>◎ 職員も同じテーブルを囲み、同じものを食べながらサポートしていた。</p> <p>◎ 食堂と台所が一体になっており、食事をつくる様子がよく見え、調査訪問時は寿司ができるにおいがしていた。 台所に一番近いテーブルに重度の人が座っており、職員が調理をする後ろ姿を見ていた。 食事時は、「かぼちゃ美味しいよ。」「もう少ししょ。」と話しかけながら介助していた。</p> <p>◎ 職員は交代で食事作りを担当しており、日誌に記入する毎日の献立を確認して偏りがないよう心がけている。 食事形態については、常に職員同士で検討している。</p>
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	出さることはしていただき、一緒に行っている				
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	出さることはしていただき、自身や達成感につなげている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	アレルギーや嫌いなものを把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節の旬なものを使って料理している				
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	刻み食、ミキサー食でも、彩りに気を付けている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	使い慣れた箸や湯呑を使用している				
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も一緒に食べ、さりげなくサポートしている				
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	寝たきりの方でも何気ない会話の中で食事の雰囲気づくりに配慮している		○		
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養バランスに気を付けている				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	何気ない声掛けにて行っている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	偏りがないようにその日で話し合っている				
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	衛生管理に気を付けている				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修にて理解している				<p>△ 口腔ケア時の目視にとどまっている。 必要に応じて歯科受診につなげている。</p> <p>△ 夕食後は、声かけや誘導を行い全員の口腔ケアを支援している。 朝・昼食後は、本人の自主性にまかせている。</p>
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	歯科往診にて把握している				
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	研修にて理解している				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	口腔ケアの援助を行っている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	何気ない声掛けで行っている				
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	歯科往診にて対応している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能が高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	研修にて理解している				職員の気付き等をもとにして、随時、口頭で話し合い支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	研修にて理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日の観察で把握している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	何気ない声掛けで支援している	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	スタッフ会議で話し合い、取り組んでいる				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	パターンを把握し、行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	家族とも話し合い、支援している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	本人に合った状態で支援している				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	体操をしたりしている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	いつでも希望があれば入浴できるようにしている	◎			前日入浴していない人から優先的に声をかけ、個々に週3~4日から毎日まで希望に沿って入浴できるよう支援している。希望があれば、夕食後も入浴支援できる体制だが、現在は利用者からの希望はないようだ。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	本人のペースで入浴している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出きることはしていただき、支援している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	自然な声掛けでしている				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	状態観察している				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	日々の暮らして把握している				現在、眠剤内服者が4名いる。医師に生活の様子などを報告して話し合っているが、さらに、活動や日中の過ごし方、支援内容などを検討し、家族や医師と相談しながら減薬や薬に頼らないケアの取り組みに期待したい。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	生活リズムを整えている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	話し合い、医師とも協力していただき支援している			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	ゆっくり休んでもらっている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	1名のみ携帯にて連絡している				対角線
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	行っている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	24時間対応にて配慮している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	手紙や葉書はない				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	家族の事情で電話できないところもある				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	理解している								
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	一緒に出掛けられる人はできている								
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	近くに買い物に行けるお店がなく、買い物にはスタッフが同行するため問題が発生しない								
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	家族と相談し決めている								
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	話し合っている								
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	利用者負担で買う場合は、その都度報告し、許可を得てから購入している								
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	×	既存のサービス以外への要望がない	◎		△	病院受診は家族の都合や希望に沿って職員が付き添い支援しているが、その他は特に取り組んでいない。				
(3) 生活環境づくり													
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	民家改築型というもあり、出入りしやすい外観になっている	◎	◎	◎	民家改築型の事業所で、建物を囲む塀や門がなく道路から駐車場や庭に入りやすい。玄関前に、メダカが泳ぐかめとベンチを置いている。				
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いている殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	◎	アットホームな空間を意識している	○	○	◎	食堂と台所が一体で、食事をつくる様子がよく見え、食器棚や炊飯器、冷蔵庫も近くにあり、生活感がある空間になっている。南側にある日当たりの良い居間のソファに利用者3人が並んで座り、テレビを見ている様子がみられた。				
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	配慮している			◎	◎	◎	毎日掃除を行っている。不快な音や臭いはなく、日差しは遮光ネットや遮光シートで調整している。テレビは、食事中は消している。		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節感をだし、居心地よく工夫している				○	◎	田園地帯に立地しており、庭に出ると季節を感じる事ができる。玄関や食堂には、サンタクロースやリースなどのクリスマスグッズを飾っていた。大き目の日めくりカレンダーがあり、新聞は利用者の手の届く所に置いている。職員が出勤時に連れて来る室内犬は、利用者の癒しになっているようだ。		
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	ソファーに座ったり、自室で休んだりしている								
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	カーテンで仕切り、工夫している								
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので生活して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家族の写真や、昔から使っていた布団などを使用している	○		○	◎	◎	◎	配偶者の位牌を持ち込み、毎日自分で水を供えている利用者がいる。巨人ファンの人は、事業所からの誕生日プレゼントの巨人軍のタオルやハンカチを飾っていた。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	出きることはしていただき、自立した生活が送れるよう配慮している				○	◎	◎	紙で作った名札を立体的に貼り、自分の居室が分かるよう工夫している。玄関にベンチを置いて座って靴を履けるようにしている。トイレのドアを外しカーテンに替えている。居室のカレンダーの歯科受診日に自分で印を付けている人がいた。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	混乱や失敗を招くものがあれば話し合い最小にするよう工夫している								
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	お仏壇を置いたり、本を買ったり、読んだりしている								
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	理解している		◎	◎	◎	◎	◎	◎	日中は、鍵をかけていない。8月のスタッフ会議時に身体拘束について勉強した。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	話し合っている								
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくても済むよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	センサーを設置したりして察知できるようにしている								
(4) 健康を維持するための支援													
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	把握している								
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	記録に残している								
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	いつでも連絡できるよう関係を築いている								

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	その都度話し合っている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	務めている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	行っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	体制がある				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	整えている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	提供している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	共有している				看取り支援計画に本人の「話しかけてほしい」家族の「外気浴を」という希望を反映して作成した事例がある。 訪問看護師にも相談してアドバイスを受け方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	◎	共有している	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	行っている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	得ている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	その都度話し合っている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	いつでも連絡をとれるようにしている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	研修にて理解している				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	研修にて整えている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	取り入れている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	対応している				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	徹底している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	関係を築けるよう配慮している				春の花見や年2回の外出行事は、電話をかけた来訪時に口頭で誘ったりしている。1~2名の参加があった。さらに、イベントや誕生会などにも誘ってみてはどうか。 家族が利用料を持参する時を捉えて、利用者の状況を口頭で報告している。今回の家族アンケート結果なども参考にして、具体的な報告について工夫してはどうか。 運営上の事柄について報告する機会はほとんどない。職員の移動はほとんどない。 家族来訪時は、職員から声をかけて状況を報告し、意見や希望を聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	いつでも来れるよう、面会時間を設定していない				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	行事等の参加呼びかけしている	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	連絡したり、お手紙をだしたりしている	○		△	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	×	不安に感じていること等を把握していない				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	本人の病状の理解をしてもらう				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	行った行事等報告している		△	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族会を開催していない				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	入居時に説明している				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来訪時にさりげない会話の中で聞きだしている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	その都度話し合っている				/
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	支援している				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	同意を得ている				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	運営推進会にて説明している		○		町内会に入会しており、代表者が公民館活動等に協力している。 秋祭りには、神輿や獅子舞が入り、利用者が子供たちにお菓子を配ったりしている。 さらに、利用者も一緒に地域に出て行ったり、事業所側から地域に働きかけていこうという取り組みを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	町内会に参加したり、秋祭り等で行事に参加したりしている		○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	近所の方が見守ってくださっている				
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	高齢化に伴い、昔来てくださった方も来られなくなりました				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	声はかけてくれるが、立ち寄ってはもらえていない				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	ボランティアを利用したことがない				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	支援している				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	近所の理容室の方が来てくださっている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族以外はある	△		△	利用者は参加をしていない。家族には案内をしていない。地域からは、町内会長や民生委員等2~3名の参加がある。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している			△	会議では、利用者の状況や事業所の取り組み、行事予定等を報告している。外部評価の結果報告はしていない。目標達成計画は作成していない。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	報告している			○	△	参加者から意見や提案が出ることもあるが、取り組みに活かしたり、それを報告したりはしていない。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	他の施設や市職員の来やすい日で設定している			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録を玄関に設置している					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	取り組んで入る					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関に設置している	△	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修を受けている					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	取り組んでいる					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	努めている					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	勉強会に参加している					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	気軽に話し合える関係を築けている	○	◎	○	代表者は、度々現場に足を運び職員と話す機会を持ち、スタッフ会議にも参加している。個人の事情等を考慮して勤務表や長期休暇等の配慮がある。	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修にて理解している					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々の生活の中で話し合っている					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることのないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	知っている				◎	職員は、不適切なケアを発見した場合、代表者や管理者に報告することを知っている。8月のスタッフ会議時に、虐待防止について勉強している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	疲労やストレスがないよう気にしている					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	理解している					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	話し合う機会を作っている					
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	その都度話し合っている					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	◎	理解している					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	支援を行っている					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	連絡できるようにしている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成している					
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	研修にて理解している					
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	努めている					
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	検討し取り組んでいる					
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成している					
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	マニュアルを作成している					
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	マニュアルを作成している					
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつつている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	日々の会話から読み取っている			△	個別に意見等を訊くこともあるようだ。運営推進会議に参加していない。	
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつつている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苦情連絡先を入居時に伝えている	○		×	運営推進会議に案内していない。運営上の意見や要望等を伝えられる機会はほとんどない。	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約当初のみしか行っていない					
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつつている。	◎	作っている					
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	話し合いにて検討している			○	管理者も現場に入って一緒に取り組んでおり、日々の中やスタッフ会議時に意見や提案を聴き、検討している。	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	取り組んでいる					
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	学習の機会を生かしている					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	事業所全体で取り組んでいる					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	必要時は運営推進会議で渡しているが取組のモニターはしていない	△	○	×		評価結果の報告は、行っていない。目標達成計画を作成していない。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	スタッフ会議で話し合い、確認している					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成している					
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回実施している					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に確認している					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	運営推進会議にて報告している	△	△	×		運営推進会議時に、避難訓練実施の報告を行っているが協力・支援体制の話し合いまでに至っていない。地域の防災訓練に参加していない。立地条件などを踏まえて、協力・支援体制づくりをすすめてはどうか。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	運営推進会議にて話を聞き、災害時の対応に取り組んでいる					

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	認知症のサポーターの研修を受けている、地域の集まりで相談、質問などには答えている				相談支援の取り組みは行っていない。 地域活動を協働しながら行うような取り組みは行っていない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方が相談に来られたり、訪問時に家族からの相談があった時は、支援できる範囲での相談を受けている		×	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	特に開放はしていないが、秋祭りはお神輿、獅子舞をお願いしている				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	受け入れはできるが、要請はない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の活動には出かけることは参加している			×	